

子どもが語った勉強の「好き」「嫌い」の変化の理由

ベネッセ教育総合研究所主任研究員 橋本尚美

子ども自身は、自分の勉強の「好き」「嫌い」の変化の理由を、どのように認識しているのだろうか。インタビューで子どもが語った、勉強の「好き」「嫌い」の変化の理由を分類したところ、以下の9つの理由がみられた。

勉強の「好き」「嫌い」の変化の理由

1	勉強の内容が理解できるようになった／理解できなくなった（難しくなった）
2	テストの点数、学校の成績、学習塾の成績などが上がった／下がった
3	テストの点数、学校の成績が上がった／下がったことをほめられた／しかられた（指摘された）
4	得意な勉強のことをほめられた
5	勉強のおもしろさを感じ始めた／感じなくなった
6	勉強することの意味を感じ始めた／感じなくなった
7	友だちに負けたくない気持ちを持つようになった／持たなくなった
8	将来いい大学に行きたいというモチベーションを持つようになった
9	学校生活が楽しくなった（先生が優しい／友だちができたなど）／楽しくなくなった（先生が怖いなど）

※小学生のときの変化の理由を語った子どももいたが、ここでは、中学1年生の初め（4月）から終わり（2～3月）までの語りを対象としている。

※勉強が「嫌い」から「好き」に変化した理由、「好き」から「嫌い」に変化した理由のほかに、「好き」や「嫌い」の程度が変化した理由（もっと「好き」になった、もっと「嫌い」になったなど）も含めている。

上記のうち、勉強の内容が理解できるようになったかどうかや（上記の1、以下同様）、それがテストの点数や成績につながったかどうか（2）、そのことをほめられたかどうか（3）は、比較的多くの子どもが、「好き」「嫌い」の変化の理由にあげていた。なかでも、中学1年生の1年間で勉強が「嫌い」になった子どもや、「好き」「嫌い」を繰り返している子どもは、この理由をあげる傾向がみられた。

その他に、勉強のおもしろさや意味を感じるようになったかどうか（5、6）といった、学習動機づけ（内発的動機づけ、[「親子調査2016」速報版 P10参照](#)）に関わる理由をあげる子どももいた。この理由は、中学1年生の1年間で勉強が「好き」になった子どもがあげる傾向がみられた。また、いい大学に行きたい（8）など、進路を意識した理由（同一化的動機づけ、[「親子調査2016」速報版 P10参照](#)）をあげる子どももいた。

さらに、学校の先生、学習塾の先生、保護者、友だちなどの関わりの影響もみられた。例えば、3、4は、点数や成績が上がったかどうか（2）でなく、それを先生や保護者にほめられたかどうかを理由にあげている。また、上記の1、5、6については、自分で勉強したことでそう感じ始めた（そうなった）という子どももいたが、先生や保護者の声かけ、学校の授業や学習塾での勉強などによってそう感じ始めた（そうなった）という子どもが多かった。友だちについては、友だちに負けたくない（7）という理由（取り入的動機づけ）のほかに、友だちができて学校が楽しくなったから（9）という理由をあげる子どももおり、学校生活そのものも影響しているようである。

1人の子どもが複数の理由をあげている場合もあるため、勉強の「好き」「嫌い」の変化の理由は単純ではないだろうが、このような子ども自身の認識をふまえることによって、周囲のサポートのあり方を検討していけるだろう。